

中学部 重複障がい学級 訪問教育 第2・3学年 生活単元学習 学習指導案

日時：令和7年10月3日（金）3校時

場所：中学部2組2 教室

授業者：T1 日比野久枝 T2 新関日春望

T3 国井千珠子 T4 金子和子

T5 相沢駿斗

1 単元名「修学旅行に行こう」

2 目標 友達や教師と一緒に体験活動に取り組み、修学旅行を成功させることができる。

特別支援学校学習指導要領 各教科編

「知識技能」

社会・国語 中学部1段階(a, b, c)

国語 小学部1段階・生活科2段階(d)

特別活動 小学校(a, b, c, d)

「思考力、判断力、表現力等」

社会・国語 中学部1段階(a, b, c) 生活科 2段階(d)

特別活動 小学校(a, b, c, d)

「学びに向かう力、人間性」

特別活動 小学校(a, b, c, d)

内容

社会【1段階】(a, b, c)

イ 公共施設と制度

(ア) 公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

㊦ 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。

㊧ 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。

生活【2段階】(d)

コ 社会の仕組みと公共施設

(ア) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする事。

(イ) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。

国語【中学部1段階】(a, b, c)

C 読むこと 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。

イ 語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。

ウ 日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。

国語【小学部1段階】(d)

A 聞くこと・話すこと

イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。

小学校特別活動【学級活動】

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

イ よりよい人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。

3 個別の単元目標

	個別の単元目標
a	・公共施設や宿泊先での体験活動を通して、友達や教師と一緒に活動することができる。
b	・公共施設や宿泊先での体験活動を通して、友達や教師と一緒に活動することができる。
c	・公共施設や宿泊先での体験活動を通して、友達や教師と一緒に活動することができる。
d	・体験活動を通して、注目したり表情を変えたりすることができる。

4 単元にかかわる生徒の実態

生徒 abc は、今年度の校外学習や小学校の時の修学旅行といった集団活動に、最初から最後まで取り組むことができている。知らないことや慣れないことに対し、不安や緊張を感じる生徒たちだが、事前にイメージをもったり、取り組むことについて繰り返し確認を行ったりすることで、初めての活動にも前向きに取り組むことができる。本時の題材である「南京玉すだれ」については、全員が見聞きしたことがないと予想されるが、事前にはふれずに、本時の中で問いかける。

生徒 d は、病状から、修学旅行に参加するのは初めてである。体調に応じて、学習中でも口や気切部からの吸引を行う必要がある。てんかん発作が度々あり、日常生活は全介助、定期的な入院や訪問介護等、医療機関と連携しながら学校生活を送っている。授業は、訪問教育を週に1～2回、スクーリングは隔週金曜日に1時間程度、また、行事等の際に設定している。体調が安定していると眠ることが多いが、学習中であることを認識できると、教師からの働き掛けに応じようと、自発的な動きで取り組もうとする姿がある。コミュニケーションは、表情や瞬き、視線、身体の動き等で行っている。身体の可動域に合わせて教材を工夫したり、本人にとって心地よい刺激を入れたりすると、学習意欲を引き出すことができる。気持ちや体調の表出については以下にまとめた。

- ・快や許可：口元の緩み 鼻の下を伸ばす 口を開ける タイミングを合わせた瞬きや手指の動き
- ・不調や拒否：息を詰める ぼんやりする 舌を尖らせる 口元を固くしてすぼめる 硬い表情 泣く
- ・発作：眼震 ピクつき ガクっとなる 不随意な連続した動き 意識が遠くなっているような表情
- ・心拍数：覚醒時115前後 入眠時100前後 睡眠時80～90前後 緊張や苦しい120以上
- ・目の動き：眼球を動かす 対象を見つめる 涙目になる 瞼を固く閉じる 薄目を開ける 等
- ・身体の動き：指先が動く 右腕が上がる 左足が上がる 全身が脱力する 等

5 単元について

修学旅行では、ハンバーガー作り、万華鏡作りといった体験活動や、うみの杜水族館、南京玉すだれを見学する活動を計画しており、それに向けた事前学習や事後学習を重複障がい学級の3名が取り組んで行く中で、訪問教育の1名も一部参加する構成になっている。

日程に準じて、体験活動や見学するものについて、実際に作ってみたいタブレットを使って見学先の情報を調べたりしていく。

修学旅行の2日目に、訪問教育の生徒が一部参加する南京玉すだれは、日本の大道芸の一つである。次々にすだれの形を変化させ、見る人を飽きさせない「見立て芸」は、古くから今日に至るまで、晴れの場で親しまれてきた。生徒にとって馴染みのない芸能であるからこそ、修学旅行が特別なものとして記憶に残り、且つ、普段の生活との関連性に気付いたり、不慣れな活動でも友達や教師と一緒に楽しむことを実際的に経験したりすることで、総合的な学びに繋がる活動であると考えられる。

6 指導について

学習の最初に、本時の流れについて簡潔に説明することで、見通しをもち、安心できるようにする。生徒が思考しやすいよう、教材は写真やイラスト、具体物等を活用する。精神的に不安感が強い生徒が、気楽な気持ちで活動に取り組めるよう、教師が失敗してみせたり、すだれが偶発的に伸びたりと、ハプニング要素をもたせる。また、音に合わせて体を動かす活動を取り入れ、楽しい雰囲気作りをする。クイズについては、クローズドクエスチョンにすることで、生徒が自信を持って応じられるようにする。問いかけやクイズに答えることで、称賛される機会を複数回設け、生徒の自己肯定感を高められるようにする。また、学んだことを修学旅行当日に活かせるよう、具体的に振り返りを行う。

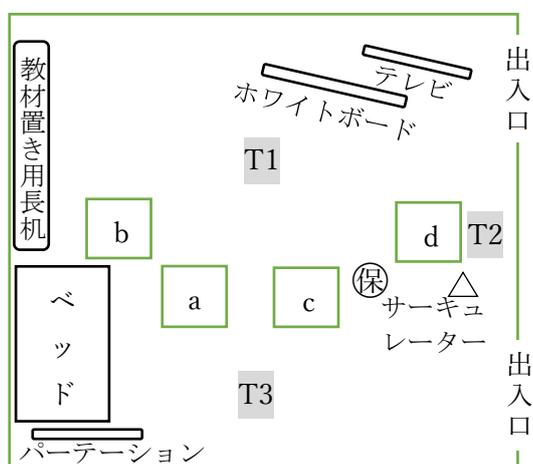
小集団での学びの良さを最大限引き出すために、座席を半円状に配置し、お互いの顔や動作を見ながらやり取りし、生徒同士が円滑にかかわれるようにする。音声言語での表現が難しい生徒には、○×や選択肢を表記したカードを選ぶことで自分の考えを伝えられるようにする。更に、生徒から出た表情や音声を教師が代弁することで、全員の理解を深めたり、互いの良さに気付いたりできるように仲介する。この単元においては、学習内容に応じて、T1～T5がMTを担当する。

本時の指導において、T2とT3は、T1の言葉をかみ砕いて繰り返し伝えたり、クイズのヒントを出したりしながら支援にあたる。当日休憩している可能性が高いcの学習保障としては、気持ちが向いたら授業に参加できるよう、教室と休憩室をGoogleMeetで繋いでおく。授業の途中からでも休憩できることについても、予め本人と確認しておく。

	実施日	学習内容（2組）	評価の観点		
			知	思	主
1	9月17日（水）	・オリエンテーション（1組と合同） *T2	○		
2	9月18日（木）	・行程の確認をしよう① *T2	○		
3	9月19日（金）	・行程の確認をしよう② *T2	○		
4	9月22日（月）	・行程の確認をしよう③ *T2	○		
5	9月24日（水）	・係決めをしよう（1組と合同） ・公共の施設の使い方、ルールの確認をしよう① *T5	○		
6	9月26日（金）	・公共の施設の使い方、ルールの確認をしよう② *T5		○	
7	9月29日（月）	・行程の確認をしよう④（1日目） ハンバーガー作り うみの杜水族館 *T2	○		
8	10月2日（木）	・行程の確認をしよう⑤（2日目） 万華鏡美術館 南京玉すだれ *T1	○		
9 本時	10月3日（金）	・南京玉すだれを楽しもう！ （3組と合同） *T1	○	○	
10	10月6日（月）	・行程の確認をしよう⑥ *T2		○	
11	10月7日（火）	・行程の確認をしよう⑦ *T2		○	○
12	10月8日（水）	・荷物確認をしよう *T4			○
13	10月9日（木）	・お土産を買う練習をしよう① *T3	○		
14	10月10日（金）	・お土産を買う練習をしよう② *T2		○	○
15	10月14日（火）	・最後の確認をしよう *T2			○
16	10月15日（水）	・しおり読み合わせをしよう *T2			○
17	10月20日（月）	・振り返りをしよう *T5		○	

7 指導計画（本時9／17時間）

※場の設定



準備する教材

- 学習の流れ短冊
- 目印マグネット
- スケッチブック
- すだれ4つ
- 海苔巻
- タブレット
- 掛け声ボード
- ペープサート
- 地球儀
- ギロ
- 5分砂時計
- ×札
- ×ブザー
- しおり
- まとめプリント
- シール
- ステップバイステップ

8 本時について

T1の視点

(1) 全体の目標

南京玉すだれを通して、自分の考えを表したり、友達と一緒に楽しんだりすることができる。

(2) 対象生徒の個別の実態と目標

	本時にかかわる実態	個別の目標	評価の観点		
			知	思	主
a	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて体を動かすことが好き。 選択肢の中から自分の考えを指さしで伝えることができる。 友達の様子に目を向けたり真似をしたりすることができる。 自分の気持ちや考えを表情や身体の動きで表現することができる。 学習に50分続けて参加することができる。 	体を動かして南京玉すだれの音を楽しんだり、質問やクイズを通して選択肢の中から自分の考えを指さしや挙手で選び、相手に伝えたりすることができる。		○	
b	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行に対して不安感がある。 自分が感じたことを言葉にすることに抵抗がある。 aさんとの活動は安心して取り組むことができる。 cさんの言動が気になり、落ち着かなくなることがある。 興味のある学習には50分続けて参加することができる。 疲れや眠気があると休憩をとることが多い。 伝統文化に関する知識や興味は薄い。 	南京玉すだれについて知り、クイズを通して自分の考えを相手に伝えたり、学習を振り返る中で修学旅行を楽しみにすることができる。	○	○	
c	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心やユーモアがある。 興味関心の幅が狭い。 自分が感じたことをストレートに言葉にすることができる。 友達や教師との適切な距離感を保つことが難しい。 午前中は眠気が強く別室で休んでいることが多い。 伝統文化に関する知識や興味は薄い。 	南京玉すだれについて知り、教師からの質問に答えたり、自分が感じたことや分かったことを、相手に伝えたりすることができる。	○	○	
d	<ul style="list-style-type: none"> 音を学習の中で合図やBGMとして活用している。 苦手な音（金属音や子供の歓声等）や好きな音（流水音やオルゴール等）がある。 自分の気持ちを、表情や身体の動きで表すことができる。 集団での学習に慣れていない。 訪問教育では、75分の授業に本人なりに取り組むことができている。 	自分に向けて鳴っている音に気付き、関心を示したり、気持ちを表そうとしたりする。		○	

(2) 学習活動の展開 ※本時はT1が主に学習を進め、T2、T3が支援にあたる。

時間	学習活動	主な支援 (○) 留意点 (・) 評価の観点 (☆)
導入 5分	1はじめのあいさつをする。 (1)しおりを見て、前時を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 2組の当番に挨拶を依頼する。 ○しおりの行程表を読み上げて思い出せるようにする。 ・南京玉すだれにdさんが参加することを伝える。 ○T2はdさんに注目されていることを伝える。
	2学習の見通しをもつ (1)質問に答える	<ul style="list-style-type: none"> ○ホワイトボードにタイトルと流れを示しておく。 ○玉すだれについて質問し、各自のレディネスをはかる。

<p>展開前半 20分</p>	<p>(2)学習の流れを知る。</p> <p>3「なまえ」について考えたり答えたりする。</p> <p>(1)南京玉すだれの名称について考えたり説明を聞いたりする。</p> <p>(2)地球儀の南京を見る。</p> <p>(3)様々なすだれをさわる。</p> <p>(4)質問に答える。 「どちらのすだれが、南京玉すだれでしょうか。」</p> <p>(5)動画を見る。</p> <p>4「リズム」について感じたり表現したりする。</p> <p>(1)教師の演技を見る。</p> <p>(2)T3の真似をして手拍子を打ったり声を出したりする。</p> <p>(3)T1の演舞を見ながら、リズムにのって掛け声をかけたり手拍子を打ったりする。</p> <p>5「かたち」について考えたり答えたりする。</p> <p>(1)ペープサートを見て自分の考えを伝える。</p> <p>(2)形→物のペープサートを対応させる。</p> <p>(3)物→形のペープサートを対応させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に演舞を見たことがある、言葉だけを知っている、知らないの3択から選べるようにする。 ○項目をひとつずつ読み上げる。 ・項目の文字は1組が担当したことを伝え、一緒に行くメンバーを思い出せるようにする。 ・学ぶこととして、①なまえ②リズム③かたち の3つであること。休憩を挟み、クイズをしたら終わりであることを示し、学習内容が負担に感じないように伝える。 ○「なまえ」の項目の前に目印になるマグネットを貼る。 ○dに注目するよう促し、dさんの名前を質問する。 ・生徒からの答えを受け、ホワイトボードの右半分に「○○(下の名前)」を書き、賞賛してから、空欄になっている左側を指し「苗字は知っていますか？」と質問する。 ○スケッチブックに書かれた「南京 玉 すだれ」を示し、この名称は3つに分けられることを伝え、どこで切ることができそうか、隙間や色に注目させながら質問する。 ○名称の由来について、視覚支援を入れながら説明する。 ・動かしやすいスケッチブックや地球儀、具体物を用い、近くで見られるようにする。 ○全員で触れるよう様々なすだれを4つ用意する。 ・南京玉すだれの特徴的な動きが自然と起きるよう、仕組みについては触れない。 ○海苔巻を置いた料理用のすだれと、伸びた状態の南京玉すだれを提示し、どちらが南京玉すだれか質問する。 ・集中力を妨げないように、質問後すだれは一旦しまう。 ☆教師の質問に言葉や発声、身振り等で応えたか。知abc ○②の項目に目印マグネットを移動して読み上げ、次に進んだことが分かるようにする。 ・T3は、テレビで動画を再生する準備をする。 ○集中を保てるよう1分程度の短い動画をテレビに映す。 ・掛け声や形について注目して見るよう、前置きする。 ・T2は、リズムに合わせてdの右腕に刺激を入れる。 ○掛け声や形、リズムについて質問し、再現する。 ○T3が掛け声を担当する。 ・T3は、「アさて」と書かれたボードを首から下げ、手拍子を大きく打ちながら掛け声をかけ、模倣を促す。 ○T1演舞1回目は「釣り竿」の技を決め、2回目の技の「魚」は失敗することで難しさを伝える。 ・生徒の手拍子や掛け声に力を貰ったことを伝える。 ○本番も相手に伝わるようにと、練習を促す。 ○T1が「魚」に挑戦し、成功させ、みんなのおかげだと感謝を伝える。 ☆リズムにのって手拍子を打ったか。思a ☆音を聴いている様子があるか。思d ○③の項目に目印マグネットを移動して読み上げ、次に進んだことが分かるようにする。 ○形をじっくり見て考えられるよう、ペープサート(魚、釣り竿、国旗、東京タワー)で技を解説する。※名称も文字で示す。 ・形に対応する物を重ねて、すだれが魚の形を模していることに気付けるようにする。 ・対応するペープサートについて、全員に確認する。 ・ペープサートが見やすくなるよう、下地を濃い色にする。
---------------------	---	---

		<p>○全員が理解したことを認めて賞賛する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休憩後はクイズコーナーであることを確認する。 <p>☆形と物が対応していることに気付いたか。思 abc</p>
休憩 5分	<p>6 水分補給 バイタルチェック 吸引等適宜 (d 母)</p>	<p>○水分補給を促す。</p> <p>5分砂時計設置／クイズ準備 (T 1) 保護者に一時的に離れることを断ってから換気 (T 2) テレビを廊下に出し、教室前方のスペースを広げる (T 3)</p>
展開後半 15分	<p>7 ○×クイズに答える。</p> <p>Q1. これ (実物) は、南京玉すだれである。○</p> <p>Q2. この形 (東京タワー) は、魚を表している。×</p> <p>Q3. ひとりずつ答える。</p> <p>a : T 1 「これは南京玉すだれの掛け声である。」 T 3 「花笠の掛け声」×</p> <p>b : T 1 「これは、南京玉すだれの音である。」 T 3 ギロを鳴らす。×</p> <p>c : T 1 「これは、南京玉すだれの掛け声である。」 T 3 「アさてアさて」○</p> <p>d : T 1 「これは、南京玉すだれの音である。」 T 3 「南京玉すだれ」○</p>	<p>○クイズの項目に目印のマグネットを移し、授業の再開を伝える。</p> <p>○丸バツの札を渡し、札を使って答えるよう伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの学習の中から、3問出題することを伝える。 ・全員でクイズに挑戦し、正解を喜び合えるようにする。 ・自信がありそうな生徒に、なぜそう思ったか質問したり、正答を促したりする。 ・最後のクイズは一人1問に答えることで、間接的に回答者以外の生徒も考える場面となるようにする。 <p>○クイズに答える順番を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて友だちを応援したり、励ましたりするように促す。 ・正解と不正解を音で知らせてクイズの雰囲気を出す。 <p>☆南京玉すだれに関するクイズに答えたか。知 bcd</p>
まとめ 5分	<p>8 振り返りをする</p> <p>(1) しおりにプリントを貼る。</p> <p>(2) 質問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ a : 南京玉すだれについて、どんな気持ちになりましたか? ・ b : 南京玉すだれを見るときは、どんなところに注目しますか? ・ c : リズムにのって楽しめそうですか? ・ d : 今日みんなとの授業がんばりましたか? <p>(3) 「カモミールの会」について、しおりの中から文字を探したり、ホワイトボードの文字を読み上げたりする。</p> <p>9 おわりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ T 3 がプリントを渡す。 <p>○T 1 はしおりにプリントを貼る手本を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T 2 は d と一緒にプリントを貼る。 <p>○最後の質問として、答えやすいよう、一人ひとりに違う質問をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵カード (なるほど/たのしみ/むずかしい等) から選べるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・答えられない場合は、ホワイトボードの短冊から選ぶよう促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・掛け声ボードを示しながら問いかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・反応が表出するまで10秒は待つ。 <p>○しおりにも書いてあることを伝えてから、当日南京玉すだれを披露してくれるのは何の会さんですか?と質問して確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目を1枚ずつ裏返し「カ」「モ」「ミ」「ー」「ル」の面を表にする。 <p>○確認できたことを認め、しおりにカモミールモチーフのシールを貼りながらここまでの活動を労う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シールの花はカモミールであることを伝える。 <p>○T 2 : d とおわりのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終わりが近いことがわかるよう、ステップバイステップを見せながら依頼する。